**政治思想基礎　第五講　マキアヴェッリを読む**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　法学部　萩原能久

http://www.law.keio.ac.jp/~hagiwara/　　　　　　　　　　　　　　　　　　　hagiwara@law.keio.ac.jp

**Ⅰ マキアヴェッリのテキストとコンテキスト**

**→コンテキスト→歴史とか、学問背景**

**→マキャベリ→政治にリアリズムを持ち込む**

**→政治思想史全体を良く見る、思想史全体が大きなコンテキスト**

**→どのような思想家も、現実問題に対して何らかの問題に対して、、、**

**→官僚制など→フコク政策、スペイン**

**→イタリア→都市国家が乱立、モナコ、サンマリノ**

**→イタリア→常備軍の設置をマキャベリは進める、スペインとかに征服されないために**

マキアヴェッリのコンテキストとは何か

1. 政治思想史全体

2. 当時のイタリア情勢

3. マキアヴェッリの全著作と『君主論』

→マキャベリは王を支持する君主論主義者？→思う人もいるが違う

4. 『君主論』の全体と部分・・・解釈学的循環

→19cドイツで発達した聖書を解釈する解釈学

→全体を理解してなくてはならない、じゃないと無理

→段々と理解が深まっていく

近代政治理論の前提：→現在の問題、近代政治理論から振り返ってみる

1. 自然の秩序からも、共同体の秩序からも解放され、運命や神の摂理、共同体の道徳とは異なる原理によって行動する人間　　　　　　　　　…………………マキアヴェッリ



→自主的に行動するのが近代人の特色、(近代以前は、神の摂理によって決まっている )

2. 「個人」という観念の成立　　　　　　 …………………宗教改革

→全体主義者→プラトン→個人が自己決定をする

**Ⅱ マキアヴェッリ(1469~1527)の『君主論(**Il Principe)**』**

「権謀術数」の悪徳の勧め？

→マキャベリズム→通常は「目的のためには手段を選ばない」という意味が込められている

→不道徳の勧め→非難轟々だった、キリスト教の道徳を重んじる風潮がある中で行ったため

→antiマキャベリが出て来る

•プロイセンのフリードリッヒ大王→反マカキャベり

　「反マキアヴェッリ」（ヴォルテールが序文）

「王公に教えをたれるとみせかけて、人民に偉大な教訓を与えた。『君主論』は共和主義者の教科書である。」

ルソー『社会契約論』

「私は天国への道を理解するための真の方法とは、地獄への道を知って、それを避けようとすることだと信じる。」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「グイッチャルディーニへの一五二一年五月十七日付書簡」

→あってはならない君主の像の提示

→本当は市民のための政治思想→ルソーは見通していた(上記)

→地獄への道は善意に満ちている→マキャベリ→政治において、「何をやったら地獄か」を想定する必要がある

マキアヴェッリの人間観

「人の実際の生き方と人間いかに生きるべきかということとは、はなはだかけ離れている。だから、人間いかに生きるべきかということのために、現に人の生きている実態を見落としてしまうような者は、自分を保持するどころか、あっという間に破滅を思い知らされるのが落ちである。」 　　 『君主論』、105頁

**→自分を保持する→理想を追求する→マキャベリ→人間の実態を見ると地獄**

**Ⅲ マキアヴェッリの思想史的意義**

•倫理の否定ではなく、倫理的欺瞞の否定（リアリストとしてのマキアヴェッリ）

→道徳や倫理を振りかざす先に、人民を搾取簒奪することがありそう

→古典古代→政治学と倫理学は同じジャンルとして扱われていた

→しかし、マキャベリにより分化した

•マキアヴェッリにおける「政治の自律」

→国家への注目

•マキアヴェッリのstato

古典的な人的結合原理(polis, civitas, res publica)から権力機構(stato)としての国家への転換

ただマキアヴェッリのstatoには「国家」ではなく、国王のstato（身分）という意味が強い。

stato：「ある個人、家、党派のde factoな優越性、権力」とそれに付随した意味（その者の支配

の正当性、その権力の担い手、支配領域）

→人的結合原理→権力行使→古典的な政治理論の打破

→stato→もう一つの状態という意味→地位→国家だけでなく、国王の身分

→de jure→事実上はルールとして(de factoと対立の意味)

＊権力の確立、存続、増大の知恵（分裂し、弱小な未統一のイタリアという現実）

→君主であっても、強力な国家形成が必要

**Ⅳ virtùとfortuna**

virtù : 「力量」倫理的色彩も持たない（古典理論の「徳」とは異なる）

人間の欲望に仕え、その発現をより効率的にコントロールする手段についての 能力 （人間の内

面にある個人的力）

→キリスト的な宗教的色彩はない、道徳的意味合いもない

→人間の内側にあるもの、個人的力

→「美徳」ではく、「力量」

→vir→男らしさを意味→男性原理を意味

fortuna：「運命」。人間にとって外的な力。 virtùにとっての制約要因

•キリスト教的な「摂理」の考え方とは異なり、運命（神）には逆らえないまでも、それを味方にすることはできる。

→キリスト教的な摂理→運命や神→味方につけることができる

→女性的原理をマキャベリは念頭に置いていた

マキアヴェッリのジェンダー・バイアス？　　Fortunaは女性、Virtùは男性

「運命の神は女神であるから、彼女を征服しようとすれば、うちのめしたり、突き飛ばしたりすることが必要である。運命は、冷静な行き方をする者より、こんな人たちに従順になるようである。」　　　『君主論』147頁

Cf. H. Pitkin, *Fortune is a Woman. Gender and Politics in the Thought of Niccolo Machiavelli*. The University of Chicago Press

→欧州→識字率が最近まで低かった→文字が読めない人たちに対してどうするの？→ドイツ語に翻訳されたものどういう風にするか



→聖書の解釈→神の言葉、ギリシャ語、ラテン語を理解しなければならなかった→政治独占を行なっていた

→一握りの人間に解釈を委ねる

→絵画→これにより、全員に伝わるように

**Ⅴ ユニークな思想史解釈法:*Iconology***

絵画の世界の「お約束事」→聖母マリアにより全員にわかるように

　→黄色が示しているもの→真実を象徴するもの

→赤→慈愛

→黒は地獄、悪魔

→絵画を見るのではなくて「読む」

→託されているメッセージを印象派絵画では見なくてはいけない

その最初の集大成：チェーザレ・リーパの『イコノロギア』1593

参考　・若桑みどり『絵画を読む──イコノロジー入門』、NHKブックス

　　　　　 ・慶應義塾大学HUMIプロジェクト

<http://www.humi.keio.ac.jp/~matsuda/ripa/ripa_index.html>

絵の詳細

→運命の糸車、知恵の鏡、Fortuneのまるい椅子(バランスで不安定さを表現)、Virtusの四角の椅子

→目隠しをして忖度をしない

Fortuna

→クピドの絵→Fortune→財産を割り当てたいりするもの

Virtu →武勲を司る神としてローマ史では描かれている

→ペガサスにまたがる神

近代以前ではとても重要

→ホッブスのリヴァイアサン→扉絵→隠されているメッセージを読み取る

**Ⅵ まとめ：マキアヴェッリの政治学**

* 運命fortunaに翻弄されるのではなく、

　それをvirtùによって克服するという戦略的実務能力、

　　人間操縦術（技術知としての政治学）

・秩序は力によって作り出されるので、道徳や宗教によってではないとの認識

→道徳や宗教→力を隠蔽する→深い気取り→君主論→君主がいかに力量を発揮するかが鍵

→運命に翻弄されてしまう→いかにして運命を味方につけることができるか

・『君主論』：君主のvirtùを説く書物

→その手法が必要になって来るのかを説明

君主にとって、信義を守り、奸策を弄せず、公明正大に生きることがいかに賞賛に値することかは、誰でも知っている。だが現代の経験の教えるところによると、信義などまるで意に介さず、奸策を用いて人々の頭脳を混乱させた君主が、かえって大事業をなしとげている。しかも、結局は、彼らのほうが信義に基づく君主たちを圧倒してきていることがわかる。

・・・戦いに打ち勝つには二つの方法があることを知らなくてはならない。その一つは法律によるものであり、他は力によるものである。前者は人間本来のものであり、後者は本来野獣のものである。・・・君主は、野獣と人間とを巧みに使い分けることが必要である。・・・こうして君主は野獣の性質を適当に学ぶ必要があるのであるが、そのばあい、野獣のなかでは狐とライオンに習うようにすべきである。というのは、ライオンは策略の罠から身を守れず、狐は狼から身を守れないからである。　　　　　　　　　　　　　　　 『君主論』112～3頁

→君主では、学び実行していかなくてはならない

•共和主義者マキアヴェッリ？

*Discorsi*（ローマ史論、政略論、リウィウス論）：市民のvirtùを説く書物

→市民がvirtuを理解して使って、発揮するの？

マキアヴェッリは君主主義者なのか、共和主義者なのか？•・・・愛国者マキアヴェッリ

→共和制→イギリスは断じて共和國ではない、

→誰が統治するのではなく、どういう風に統治するの？

•製作の学としての政治学？

Kunst des Möglichens?　（ビスマルク）　–　これが支配者への指南になるのは必至

体系性を持たない技術知　–　秩序が持つべき内容についてのヴィジョンはない。

→政治とは可能性の技、芸術である、すげえもの可能なもの

→支配者に対してこういう方法がいい

→マキャベリの政治学はhow to 本みたいなもの

→アリストテレス→理論、知識の累計、技術知としての政治学

→プラキシス(実践。[実行](https://kotobank.jp/word/%E5%AE%9F%E8%A1%8C-4243)。行動)

→政治学→プラキシス→中世では宗教と同じ→近代ではテオリア

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*文献\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

『マキャヴェリ』（世界の名著16）中公バックス

クエンティン・スキナー『マキアヴェッリ─自由の哲学者』、未來社

佐々木毅『マキアヴェッリと＜君主論＞』、講談社学術文庫

佐々木毅『マキアヴェッリの政治思想』、岩波書店

塩野七生『わが友マキアヴェッリ』、中公文庫

若桑みどり『絵画を読む─イコノロジー入門』、NHKブックス

ジャン=ジャック・ルソー『社会契約論』、岩波文庫